

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp



【内陣へと進む還座列】

三條教区を挙げて準備が進められている二〇一五年の宗祖御遠忌法要まであと半年を切りました。本年は御遠忌法要をお迎えする直前のお取り越し報恩講

として、十一月三日の御本尊還座式の後、五日から八日まで、三昼夜四日間にわたり、厳かに執行されました。

本堂にお還りになった御本尊の下でまず勤められたのは、御遠忌記念事業である本堂及び諸殿の御修復の完了を教区内寺

院・門徒・地域の方々に報告する、三條別院本堂等御修復完了奉告法要。例年行われている、報恩講お待ち受け音楽法要と兼修で勤められました。

また、初日中法要からは、本年も信明院鍵役が御参修されました。



【女性僧侶と合唱団】

お取り越し報恩講執行

御本尊還座式及び本堂等御修復完了奉告法要が勤まる

百回御遠忌も、本の御遠忌を受け、宮谷法含宗務総長の「宗門白書」と同朋会運動の始まりという熱気の中で勤められたといえます。当時は教務所も兼ねていた大谷会館（現在の松葉幼稚園の園



【50年前の教区御遠忌の熱気を語る】



【登高座する信明院鍵役】

舎が、御遠忌記念事業で建設されたことや、「御遠忌奉賛会」が結成され、教区内寺院・門徒・三條の街の人々に会員バッジをつけていただき、募財と御遠忌法要の周知が同時に進んだことなど、教区・別院・幼稚園・二條の街を挙げてお勤めされたことをお話しされました。

また、首都圏教化推進本部の海法龍氏（東京教区長願寺）、浅間伸一氏（第十九組玄證寺



【浅間氏（右上）、石田氏（右下）、北原氏（左上）、内田氏（左下）】



【海氏には三座御法話をいただいた】



【池守輪番（上）、相場氏（下）】

衆徒）、石田隆浩氏（第二十組西光寺）、北原致氏（第十一組西照寺）に御法話をいただきました。

初日中法要からは、本年も信明院鍵役が御参修されました。御伝鈔の拝読者は、上巻は池守輪番、下巻は三条声明会の相場行宣氏（第十一組淨圓寺）。照明を落とし蠟燭の灯の下で、堂内に響き渡る声で、聖人の遺徳を讃えました。

また、三条教区の帰敬式実践運動スローガン「いただきます 法名を今」の下に帰敬式を執行し、六日に二十五名、七日に十四名が新たな仏弟子としてお剃刀を受けました。



【助音・掛役には研修生も加勢した】

修復工事の完了した本堂で勤められた今年のお取り越し報恩講。参詣者、内陣出仕者ともに例年より多く、来年に御遠忌法要をお迎えする機運がいよいよ高まってまいりました。



【満堂の様子（中上）、ごばさま寄席での金馬師匠（中下）、御満座の位上曲（左上）、教区内有志による立花（左下）】

三条別院に想う

この度、改めて三条別院とは私にとってどういう場所であるかを想う機会を与えられました。私が初めて三条別院に足を運んだのは三十年近く前の報恩講だったと記憶しています。まだ木造の古い庫裏の時代です。夕方から本堂で初夜勤行が勤まっていました。大きな御堂に小さな古ぼけた石油ストーブが数台燃えていて、小さなつぎはぎだらけの座布団に、純粹に仏法聴聞を楽しみとも歓びともしているとも思われる年配のお同行方が十数人程度座っていました。勤行が終わるとそこへ「今晚はわしらにまかれと言われた話をさせてもらおう」と言って風格のある布教師さんが二人、順次法話をされました。最初の方は地獄・餓鬼・畜生の御話をされていたように記憶しています。素朴な中に、しかし聞く人たちが何か楽しげで、話す方も肩の力の抜けた話し方をしていて伝統的な仏法の話にしみじみと魅力を感じました。ああ、ここが古くから皆に親しまれてきた三条の御坊さまという所かと思った。

以来私は三条別院に数えきれないほど足を運び、様々なご縁を結ばせて頂きました。教学研究会や安居、声明研修会や子ども奉仕団、真宗学院などなどいろいろな教えて頂きました。毎年の報恩講では好きな声明を思う存分、ノドがつぶれる程勤めさせてもらっています。

御遠忌を来年に控え、同朋会館も立派になり

本堂も明るく改修されました。そんな中で私の三条別院の原風景は最初に申したようなものです。聞かずに居れない者とかたらずに居れない者同士が義理や義務でなく出向き、呼応する場所にこそ私も身を置き続けたいのだと改めて気づきました。

（第十組専徳寺住職 多田 誓 氏）

○次回の「三条別院に想う」は、

佐藤 健氏（第十三組 西方寺南徒 より）

ご執筆いただきます

■本山御正忌報恩講団参報告

去る十一月二十七日から二十九日にかけて真宗本廟御正忌報恩講団体参拝に行つてまいりました。本年は二十六名の旅となり、本山の報恩講結願速夜から御満座とお斎までを本山で過ごし、その後は下呂温泉に宿泊、高山別院へ参拝し帰路に着きました。

例年ですと冷える体を寄せて参拝するのですが、今年の京都は暖かく満堂の御影堂の中、熱気を感じながらの参拝でした。今年も輪番も旅をともし、結願速夜参拝の後は本山の諸殿拝観を行うなど、普段足を踏み入れることのない諸殿に皆さん興奮気味だったようです。



【御影堂前で記念撮影】

■除夜の鐘・修正会のご案内

除夜の鐘

◇日時 十二月三十一日（水）

午前十一時四十五分より

◇場所 当別院鐘楼堂

◇受付 教区同朋会館

○受付場所にて、温かい飲み物を振舞います。

修正会

◇日時 二〇一五年一月一日（木）

深夜午前零時より

◇場所 当別院本堂 仮本堂

○お勤め後、輪番による新年の挨拶



★除夜の鐘×今泉×いつも「こ」から

除夜の鐘の整理券を「今泉（そば）」または「いつも（こ）から（ラーメン）」に持参すると、五百円で年越しそば（ラーメン）が食べられるなど、特別サービスが受けられます。詳しくは案内チラシをご覧ください。

■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【二月二十八日（水）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讚 淘五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

米山 裕子氏（真宗学院第一期卒業生）

◇今後の講師一覧

一月 池守 章（三条別院輪番）

三月 本多 智之 氏（第十八組 永傳寺）

■定例法話会のご案内

毎月十三日の前門首のご命日（両度の命日）に行つて定例法話会ですが、一月は休会となります。二月からは左記の通り、開催となります

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より（二時間程度）

◇場所 三条別院 仮本堂

◇講師

一月 休会

二月～四月

大藤 赳磨氏（第十組 勝願寺）

五月～七月

小林 智光氏（第十二組 淨照寺）

■別院声明教室のご案内

来る五月に厳修される宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要では、僧侶・門徒一同に勤める同朋唱和のお勤めが日程に組み込まれております。五十年に一度の法要と一緒に勤めするため、この機会には是非一緒に声明を学びませんか。

◇開催日 二月十八日、三月十八日、四月十五日、五月十三日、六月十七日（いずれも水曜日）

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇会場 教区同朋会館（三条別院内）

◇講習内容 正信偈 草四句目下 念仏讚 淘三

和讃 弥陀成仏のこのかたは 次第六首

回向 願以此功德

◇講師 真島修智氏（第十六組 光得寺）

◇参加費 五〇〇円/回

■別院書道教室のご案内

当別院を会場に書道教室を開催しております。受講生を追加募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。

◇開催日 毎月二回（第二、第四水曜日）

◇時間 午後六時三十分～八時

◇講師 木原 光威氏（新潟県書道協会理事）

◇持ち物 筆（大・小）、硯、下敷、文鎮、墨液、半紙、新聞紙

◇月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

書道と私

丸山 房江（書道教室生徒）

私が初めて書道と出会ったのは、小学二年生の時、親に勧められたのがきっかけでした。それから数年間習っていました。が、学業を離れると同時に接する機会が次第に少なくなっていました。社会人になってからも、書道を習いたという気持ちはずっと持ち続けていたのですが、なかなか行動に移せませんでした。そんな時、義母が習っている書道教室の話聞き、子供時代の情熱が甦りました。私も是非一緒に習いたいと思い、一念発起しました。

こちらの書道教室に通わせていただきまだ数ヶ月ですが、いつの間にか書道が私の生活の一部となりました。私にとって書道は、日常生活で感じることでできる芸術だと思っています。集中して書ることによって感性が磨かれ、また、その時の気持ちによって書体が変わるのも面白く感じます。子供の頃は「上手になりたい」という気持ちだけで習っていたのですが、大人となった今では、毎月いただく課題を見て、言葉の表している風景を想像しながら、また違った楽しさを感じています。そして、書道を終えた後の



【報恩講にあわせ仏教語を書いた】

爽快感がとても心地良く、日常生活に彩りを与えてくれるようになりました。また、木原先生が誉め上手なので、気持ちが高揚し前向きに練習に取り組むことができます。

これからも木原先生の下で腕と心を磨き、書道という芸術を楽しんでいきたいと思っております。

■別院奉仕研修および別院特別参拝について

先達の篤き

御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方（団体）の、冥加金は左記のとおりです。



【12月13日～14日に行われた18組奉仕研修】

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

また、皆様の御懇念により御修復が完了した本堂・諸殿を会場とした、「別院特別参拝」を実施いたします。ご希望の場合はお電話ください。

◎日程

- ・勤行(修復の完了した本堂にて同朋唱和)
- ・三条別院の歴史について
- ・宗祖御遠忌法要概要説明
- ・諸殿拝観

本堂・旧御堂・書院・同朋会館・駒札修復箇所を中心に説明いたします。

◎冥加金

- ・金額は定めておりません。

◎その他

- ・時間等はできるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談ください。
- ・お土産に「越佐の国三条別院なむの里」をお求めの場合、事前にご連絡ください。

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にごさいます宿泊者帳に記帳してください。その後、シーツクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。なお、宿泊される方は翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただけますようお願い致します。また、施設の都合上、宿泊予定の場合は必ず事前に職員にご相談ください。

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどこしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談ください。

■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多く

の方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

◇◇編集後記◇◇

最大行事の報恩講が終わりました。盛りだくさんの準備で毎日遅くまで頑張りました。いろいろな仕事があり、大勢のスタッフの皆様にもご尽力いただきました。永い伝統の重さをひしひしと感じることが出来た報恩講でした。

三日は「お取り越し奉賛会」主催の「ごぼさま寄席」が行われ、金馬師匠ご一門の出演で広い本堂も溢れるような賑わいがあり、この行事もすっかり三条市民に定着しています。

ところで、例年師匠たちは別院で昼食を摂られるのですが、接待マニュアルには「出番の前なので食事は軽めなものを注文する」と引き継がれて来ましたが、何を食べになるかお聞きすると、皆様〇〇の「大盛」をお願いします、とのご返事。考えてみれば高座は体力も必要な仕事、きつちりお食べになるのが本当でしょう。マニュアルでは相手の身になって考えたつもりが、実はこちらの勝手な思い込みに過ぎなかった、ということなのでしょう。

十三・十四日、十八組奉仕研修当日、早すぎる大雪になりました。冬は嫌いです。(有坂)